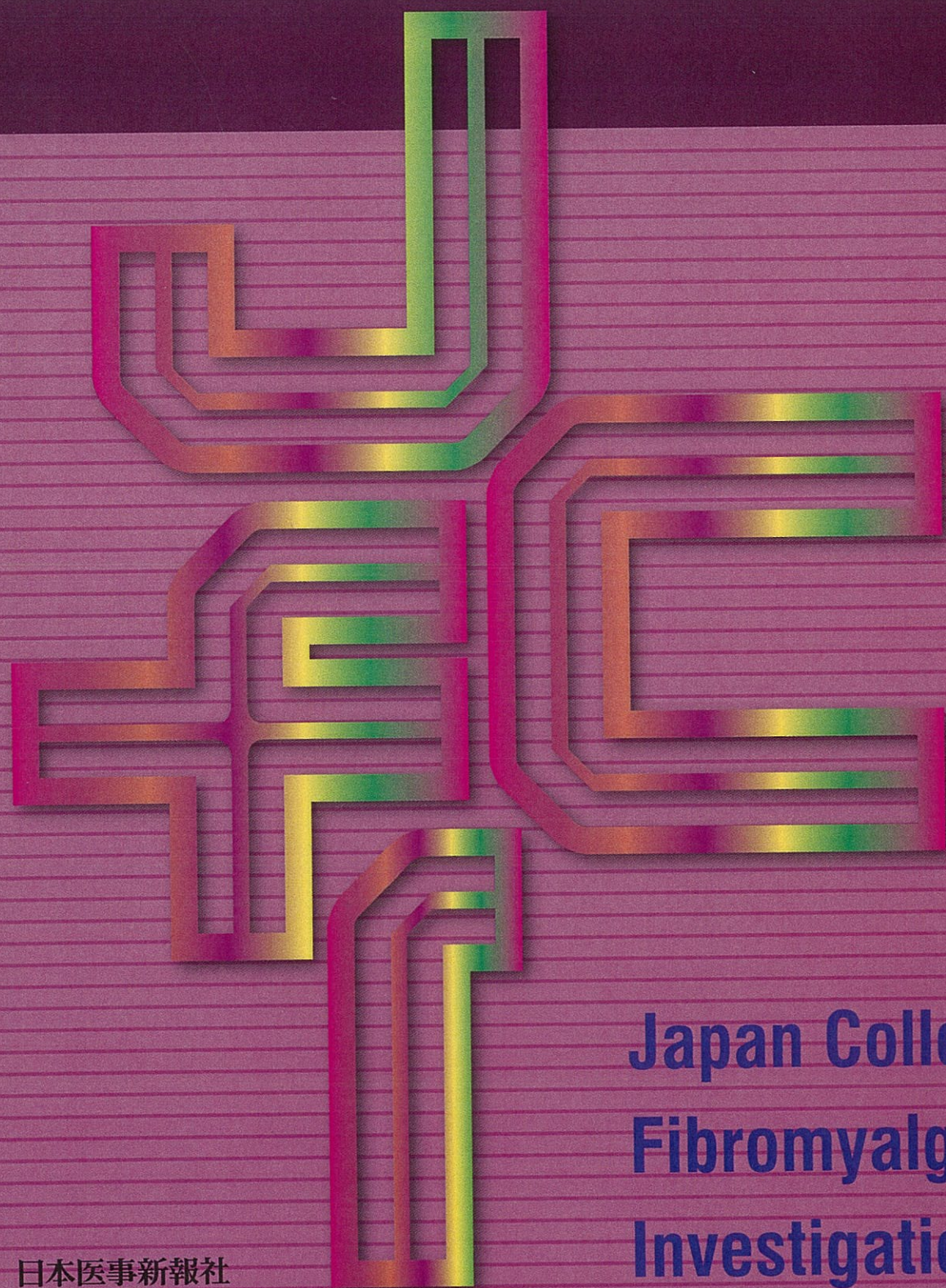


線維筋痛症診療ガイドライン

2013

日本線維筋痛症学会 編



Japan College of
Fibromyalgia
Investigation

日本医事新報社

はじめに

- ▶ 2009年、本邦で初めての線維筋痛症診療ガイドラインとして本ガイドラインを発刊し、多くの分野から本症の診療に際して一定の方向性が示されたと好評を頂いた。また、一昨年発刊した「線維筋痛症診療ガイドライン2011」は、公益財団法人日本医療機能評価機構が運営するインターネット上での医療情報サービス事業 Mindsにて、2011年度に国内で作成されたガイドラインを対象とした「診療ガイドライン選定部会」により、高い評価を受け選定されるに至った。しかしながら、本症の研究は日々進歩しており、また、本邦で初めての治療薬が保険適応薬として承認されたことから“線維筋痛症診療ガイドライン2011の改訂版”として本書を発刊する経過となった。
- ▶ 本ガイドラインでは、日本人を対象とした診断および治療・ケア上のエビデンスがきわめて少ないため、多数の患者さんを本邦で治療している執筆者の経験則に基づく学会発表の抄録等をエビデンスの根拠として利用せざるをえない部分もある。また、本邦において線維筋痛症の診療に関する明確な保険診療が整備されていないため、各医療機関は本症に伴う多彩な随伴症状に対しての診断や治療に対して保険での診療報酬を請求しているのが現状である。
- ▶ 本書は、基本的には本症に伴う随伴症状の改善により主症状が軽減することをもって推奨度を決めている場合が多い。これは主として前述した公的保険診療を念頭においた本症の多彩な臨床症状に起因する。
- ▶ 線維筋痛症は最近注目を集めている疾患のひとつであり、その病因・病態の解明や治療方法の確立は多くの症例をもとにいわば模索的に進んでいる状況である。本邦での取り組みは、2003年に筆者が班長を務めた厚生労働省リウマチ研究班の分科会として初めて研究班が立ち上がり、その後、2008年に線維筋痛症の単独班が発足し、現在も継続されている。これにより、基礎および臨床面で診断、治療、患者ケアなどに対する一定の方向性が見出されてきたことは大きな収穫である。
- ▶ また、日本線維筋痛症学会が2009年に発足し、事業のひとつとして整備を進めている診療ネットワーク参加施設も増加しており、ようやく本格的な治療や病因への研

究が本邦でも始まった。

- ▶このような臨床研究により、その病態に基づく治療方法が徐々に確立しているものの、その一方で依然として疾患に対する医師の認識の低さに加え、病像の複雑さから診断や症状の把握、さらに治療に著しい困難を招いている症例が増加しているのも事実である。このような症例に層別化したエビデンスの確立が本来は必要であるが、そのためには、かなりの時間と製薬会社の積極的な臨床開発による関与が必須であるが、現在のところ、一部の会社を除いて難しい状況である。したがって、エビデンスについては多数例を観察している医師の臨床経験に依らざるをえない状況でもある。
- ▶また診療体制についても、診療科が疾患の複雑な臨床像からリウマチ科、整形外科、精神科、心療内科、ペインクリニックなど多岐にわたり、多くのクリニックや病院を転々とする患者さんが多く、保険診療への対応を中心に行政面からの対応も急がれる。
- ▶この現状に基づき、試行錯誤的な段階ではあるが本ガイドラインが臨床の現場での診療の指針として、患者さんの病態を把握し、可能な限り本邦の医療提供体制に則した治療を進めていく上でお役に立てれば幸いである。

平成25年2月

日本線維筋痛症学会 理事長

西岡久寿樹

ガイドライン作成委員会委員長

松本美富士

線維筋痛症診療ガイドライン2013 作成委員会

組織図



委員長 松本美富士

① 作業部会

西岡 久寿樹 (リウマチ科) (部会長)

植田 弘師 (薬効・薬理: 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科分子薬理学分野教授)

宮岡 等 (精神科)

村上 正人 (心療内科)

行岡 正雄 (整形外科)

横田 俊平 (小児科)

松本 美富士 (内科)

② 文通部会

三木 健司 (部会長)

白井 千恵

浦野 房三

岡 寛

長田 賢一

澁谷 美雪

下村 康氏

戸田 克広
橋本 裕子
班目 健夫
山野 嘉久

執筆者一覧(五十音順)

白井 千恵 (順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科准教授)
浦野 房三 (JA長野厚生連篠ノ井総合病院リウマチ膠原病センター長・リウマチ科部長, 院長補佐)
岡 寛 (東京医科大学八王子医療センターリウマチ性疾患治療センター教授)
長田 賢一 (聖マリアンナ医科大学神経精神科准教授)
菊地 雅子 (横浜市立大学附属病院小児科指導診療医)
澁谷 美雪 (霞が関リウマチ治療研究所看護ケア主任研究員)
下村 康氏 (藤田保健衛生大学七栗サナトリウム地域支援室・医療福祉相談室主任)
武田 雅俊 (大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学教室教授)
戸田 克広 (廿日市記念病院リハビリテーション科科长)
西岡 久寿樹 (東京医科大学医学総合研究所所長)
橋本 裕子 (NPO法人線維筋痛症友の会理事長)
橋本 亮太 (大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター准教授)
班目 健夫 (青山・まだらめクリニック院長)
松野 博明 (医療法人社団松緑会松野リウマチ整形外科理事長・院長)
松本 美富士 (独立行政法人桑名市総合医療センター内科・リウマチ科顧問)
三木 健司 (尼崎中央病院整形外科第二部長/大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター院外専門医)
宮岡 等 (北里大学医学部精神科学教授)
宮前 多佳子 (新百合ヶ丘総合病院小児科部長)
村上 正人 (日本大学医学部附属板橋病院心療内科部長)
山野 嘉久 (聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター准教授)
行岡 正雄 (医療法人行岡医学研究会行岡病院理事長・院長)
横田 俊平 (横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学教授)